

広報 かわの

令和2年9月1日 第2号

◆署名嘆願書に市長から回答

■ 回答書を受取る 6月24日

広報「かわの」第1号で報告のとおり、河曲地区で進めた「公民館・地区市民センター・体育館3施設の建て替え」を求める全町民運動では、署名簿を添え、総合計画2023後期基本計画での事業化の位置づけについて、3月10日、嘆願書を鈴鹿市長に提出した。

これに応じて6月24日、右の写真のとおり、末松市長から萩義彦会長へ回答書が手渡された。



■「今後4年内に実行計画書に登載予定」

「総合計画2023の後期基本計画期間内においては、作業スケジュールを想定し、実行計画書に登載していく予定」との文言を主旨とする「公民館・地区市民センター・体育館の建替えについて」と題された回答書の要点は以下のとおり。

『・・・さて、今後の建て替え更新も含めた公民館の老朽化対策であります。人口減少社会を迎える中、一部の施設の更新について検討するのではなく、市全体の230を超える公共施設の更新の在り方について検討し、保有量の適正化、運営管理の適正化を計画的に行っていくこととしております。

公共施設の老朽化対策については、長寿命化・大規模改修などを基本とし、公共建築物個別施設計画の策定を進めているところでございます。

また、本計画の策定に当たり、昨年度に実施した市民アンケート結果では、約8割の方から「複合化や集約化の取組に、積極的に推進又は検討してほしい」との回答をいただいております。

このことから、モデル検討施設の候補として老朽化状況と立地状況を考慮し、河曲公民館と隣接する河曲小学校(体育館含む)との複合化についても、検討を始めていきたいと考えています。

特に、不特定多数の方が日常的に利用される生涯学習施設と学校教育施設を複合施設として整備することは、本市にとりまして初めての取組であり、そのメリットやデメリットなど様々な観点から慎重かつ十分な検討が必要となって参ります。

従いまして、総合計画2023の後期基本計画期間内においては、当該施設に係る改築又は複合化の検討、庁内協議、関係団体等との調整などの作業スケジュールを想定し、実行計画書に登載していく予定としております・・・。』

■ 萩会長、「先が見えてきた、あと一押し！」

回答によれば、令和5年までの4年間の後期基本計画を進めるにあたり、河曲の当該案件を十分に検討し、実行計画書に盛り込んで行く、とのこと。

この市長回答に、萩会長は「建て替え促進という全町民運動に対し、市から明確な計画が示された。よかった、先が見えて取りあえず一安心。しかしここからが本番、あと一押し！」と、目途がたったことに安堵しつつ、次なる展開への決意を新たにした。



防災の最前線

消防 / 河曲分団の活動

9月1日は防災の日。これを機にサテライト型防災訓練はじめ、防災救助面で河曲のみんなが日頃お世話になっている鈴鹿市消防団河曲分団の現下の活動と、明治の発足期からの事績の幾つかを紹介いたします。

■ 第6方面隊 河曲分団 17名

鈴鹿市の地域消防組織は6方面隊24分団から成り立ち、河曲分団は飯野分団、神戸分団、および市内唯一の女性団員構成のひまわり分団と連帯して第6方面隊を構成。現在の河曲分団3班17名（定員18）は、在籍32年の西村善行分団長を先頭に以下の皆さんです。

分団長	西村善行	副分団長	長谷川剛
部長	中村方信	第一班長	川北格也
第二班長	河北 哲	第三班長	田崎直弘
団員	小岐須隆	尾崎信孝	楠 直幹
	鈴木理史	永戸良平	生川文和
	武野剛士	前川申龍	松永生希
			杉野良樹
			藤井宏基

■ 年間定例活動

ボランティア精神の塊の団員の皆さんは自分の仕事を優先させつつも、地域の安全安心への奉仕には最大限の時間と努力を注いでみえます。おもな活動は毎月の消火栓・防火用水点検等巡回活動、および毎月2日夜7時半からの定例会合に加え、年間活動として、

5月 若手団員と幹部団員の連動訓練

6月 水防訓練 8月 団員研修旅行



9月 地域防災訓練と県市主催合同総合防災訓練
10月 鈴鹿市消防操法大会に参加（隔年開催）
11月 秋の火災予防運動パトロール 7日間
12月 年末パトロール 1月 出初式
3月 春の火災予防運動 7日間

■ 緊急時対応

火災出動を第一義に、次の緊急時対応が行われます。

台風時対応 ①本部から分団長への出動要請

②第2非常配備 分団員5名が車庫2階詰所で待機

③第3非常配備 分団員10名が詰所待機

④第4非常配備 非常危機事態時として総員対応

地震時対応 震度4強の場合、出動可能な団員は自分と家族の安全を確認、そのあと車庫に集合し出動

地域交流にも力をいれ、1) 河曲小学校への出前授業

2) 地域づくり協議会の一員としての諸活動

消防組 / 消防分団の事績

■ 河曲村消防組の発足 明治28年

明治27年2月の勅令第15号「消防組規則」と翌年4月の「施行細則」制定により「河曲村消防組」が発足。青木謙造村長のもとで新組織は次の通りでした。

組頭（手当月10銭）、小頭、消防手21人

所有器具 唧筒1台 刺扱1挺 斧1挺 水桶9個

鳶口4挺 竹楷梯1挺 旗1流 高張提燈1張

小丸弓張提燈2張 長弓張提燈21張

警鐘ハ当分寺院梵鐘九ヶ所ヲ以テ代用、器具置場ハ

河曲村大字河田、被服ハ一人ニ付法被頭巾ヲ給ス

■ 歴代組頭 明治28年から大正初年まで

初代 河田 瓜生辰治郎 二代 須賀 村田周吉

三代 須賀 中村清太郎 四代 木田 坂倉千松

五代 河田 小林藤治郎

明治36年、三重県告示第18号で組織は四分割されて、

河田組（河田のみ）

六代 林四十太郎

竹野組（野辺と竹野）

六代 山際吉五郎

木田組（国分、山辺と木田）

六代 坂倉勇治郎

須賀組（十宮と須賀）

六代 松林由次郎

その後、4組個別で更迭があつて七代目は、

竹野組 鈴木己之助（途中交代・鈴木市蔵）

河田組 川北幸太郎

木田組 田中仁吉

須賀組 松林岩太郎

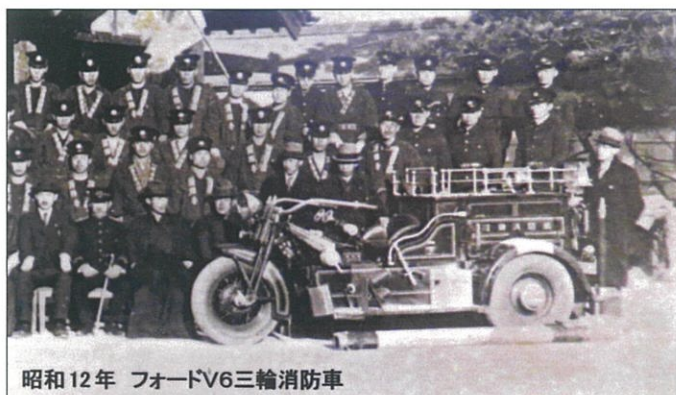
ところが、大正元年9月、県通達第13号により、小頭2名、消防手40名、器具・唧筒2台を以て再統合となり、昭和14年まで、長くこの体制が続きます。

八代 河田 林四十太郎 九代 野辺 北川久作

十代 須賀 松林常次郎

■「金馬簾」認許の栄 昭和12年

昭和12年5月、永年の精勤が評価され「金馬簾」を拝受しました。松岡勇組頭、組員57名が戴いた認許状の文言は「紀律厳肅ニシテ訓練熟達シ他ノ模範タリ仍テ金馬簾壹條ノ使用ヲ認許ス」とあり、大正8年4月の金馬簾制度発足20年にして、河曲組は「県下優秀消防組織」を意味する「金馬簾」使用認許組織となります。組頭寄贈に依ったフォードV6エンジン三輪消防車が、須賀の消防車庫に常駐していました。



昭和12年 フォードV6三輪消防車

■ 警防団から消防団 昭和23年

昭和14年、国防体制強化の時流に沿って消防組は警防団に改組、団長には組頭の松岡勇氏が就任、以後9年間、戦中戦後の国難期に対処されました。

昭和23年、新たに鈴鹿市消防団が発足。河曲では昭和25年以降、一色光治、松林正男、生川行夫、川北明久、藤田三千男、飯田秀治、田中才治の七氏による練達の分団指揮のもと、ことし70年目を迎えます。

■ 消防操法大会で3連覇 昭和61年

団員の訓練における消防用機械器具の取扱いと操作のことを消防操法といい、その標準は国の「消防操法の基準」に依り、団員の技量評価基準となります。

昭和61年11月、金馬簾の心が活きる河曲分団は、三重県消防操法実施新要領に則して開催された第1回鈴鹿市消防操法大会で、市長賞を獲得しました。

出場した太田守平、飯田秀治、岡田正樹、松林勉、西村次男の5選手は「防火水槽から給水、火点への放水、撤収の手順の機敏さ」を競う新規小型ポンプ操法規定にも余裕で団体対応できる熟達力を開示、さらに岡田、松林の2人は個人競技でも優勝されました。

昭和62年も上記種目で団体優勝でした。前年の岡田、松林、西村3人に田中才治、澤田藤弘、川口秀樹の3選手が加わる強力チームならではの、成果でしょう。

さらに昭和63年、木林宗隆、前川則幸、西村善行、廣田政義の4人が伝統を守り3連覇を達成。そして河曲分団の練達水準の高さは、その後、第6回、7回、10回の優勝ラッシュに繋がり、今日に至っています。

このうち飯田氏と田中氏は、既述のとおり第六、第七代分団長。西村氏は現分団長です。

■ 瑞宝章の栄 平成30年

平成30年11月、秋の叙勲で鈴鹿市消防団在籍45年の地域貢献を以て河田の川北明久氏が瑞宝単光章を受章されました。氏は昭和46年に河曲分団に入り、河曲を見守って27年、ついで鈴鹿市消防団副団長として18年市内全域の防災に尽力されました。昨今は消防を離れて、野菜のハウス栽培にお忙しい御様子です。



瑞宝章では昭和63年秋、在籍40年、うち分団長歴19年の生川行夫氏が勲六等瑞宝章の栄に浴されています。川北氏叙勲は河曲で30年ぶりの慶事でした。

■ 西村分団長所信 令和2年

平素は消防団活動に多大のご支援を頂き、御礼申し上げます。安全安心を守る消防団として、伝統を培われた先輩分団長諸氏の意を戴しつつ、団員一丸となり地域貢献に常に新たな気持ちで励んでおります。

防災の日を契機に、住民お一人お一人には自らの命と財産を守る意識を高めていただき、我々消防団は皆様のご理解と一層のご協力のもと、今後とも地域防災を担う身近な消防団として頑張りますので、宜しくお願いいたします。

鈴鹿市消防団河曲分団

分団長 西村善行





令和2年8月1日 午前6時34分

◆ラジオ体操、204 名が爽やかに

8月1日、梅雨明け初日、涼やかな風に迎えられて学校運営協議会主催、地域づくり協議会共催のラジオ体操会が行われた。コロナ禍のため地域行事がほとんど中止という難しい条件下、ソーシャルディスタンスをとりつつ、過去最高の204名の参加があった。

体操のあと、恒例のお楽しみビンゴ大会が豪華賞品つきで盛り上がった。兄妹二人で参加して特賞のメロンを一番でゲットした大釜君からは「みんなで体操できて楽しかった」、妹さんからは「メロンが当たってうれしかった」とのコメントがあった。

なお、8月8日の体操会参加者は184名だった。

◆地域インフラ整備事業の今後

1. 「ゾーン30」地域での施設整備事業

7月3日、「ゾーン30」既設区域に対する国の新たな施設整備事業発足に関する懇談会があった。席上、県市連携した行政側から、三重県下でこの事業開設趣旨に一番合致するのが河曲地区ゆえ、官民二人三脚で補助申請を進めて行きたい旨の話があった。嬉しい話。

2. 「鈴鹿四日市道路」 竹野から国分を延進

8月4日、センターで、計画中の中勢バイパスからの北進ルートについて説明会があり、野町から竹野、野辺、木田、山辺、大谷、国分を通して采女に至る高規格道路を新設との話を聞いた。萩会長、遠藤総代会長、関係6自治会長らが出席。鈴鹿川には新たに架橋。

◆博物館、中学校の草刈

梅雨空の7月18日、今年2回目の協議会定例の草刈を行った。参加者は各地区自治会長、協議会構成団体役員、参与、市の支援職員など39名。

小雨模様で、コロナ対策のマスク着用というハンデにも拘わらず、考古博物館広場から中学校北側の植え込みまで綺麗に整えられて、午前11時には神中体育館脇で「作業完了、集合写真!」となった。



人事異動

事務局次長 田中英敏（副会長併任） 6月1日

河曲地区地域づくり協議会広報紙

『広報かわの』 第2号 令和2年9月1日発行

発行責任者 地域づくり協議会事務局長 松林嘉熙

事務局 河曲公民館内「地域部屋」 電 059-390-1295

付記：6月1日、上記人事と地域部屋への電話等事務

用機器の導入を以て、湯川、田中、松林による事務局体制が整った。